「ウェルビーイングな都市」を目指し 有識者が贈る言葉

当所では、2019年12月に創立140周年を迎えたことを記念し、10年後の2030年に向けた「まちづくり提言」 を作成しました。とりまとめにあたっては、当所がまちづくりについて長年提言してきた内容や経緯を踏まえ つつ、各界、各世代の声に耳を傾けてきました。この誌面では、岡山が「日本一住みたいまち」になることを 願う有識者の声をご紹介いたします。

まちは変化するもの、

が進み、 内中心部のあちらこちらで再開発 高層の住宅や商業施設が建設さ

を、

して示してくれていて、大変感慨深い。

進めて行くことは可能なのだということ うと、都市構造そのものを理想の方向へと

四半世紀の努力の積み重ねが現実と

状化、 エア構想」 岡山芸術創造劇場の建設、路面電車の環 の声が上がった頃であった。現在進行中の が提言され、路面電車によるまちづくり の当時は、 において「人と緑の都心1㎞スクエア構想 したのは、今からおよそ25年前である。そ 私が銀行員として初めて岡山市に赴任 県庁通りの整備もその「1㎞スク が淵源のひとつであることを思 1994年に岡山商工会議所

流として流れていると考えられる。その といった、地域を巡る価値観の変化が底 き方の登場、SDGsの認知度の高まり ニーズ、小さな生業や起業を重視する働 景には、 ところで、このようなまちの変化の背 利便性を重視した都心居住への



中村 聡志氏

院大学教授等を経て、 本商工会議所出向、地域企画部企画審議役、政策研究大学 センター主任研究員、地域振興部課長、岡山事務所長、日 本開発銀行(現㈱日本政策投資銀行)入社。地域政策研究 1988年3月東京大学経済学部卒業。1988年4月日 専門は地域産業振興、中山間地域振興、まちづくり。 2018年4月から現職。

山陽学園大学 地域マネジメント学部なかむら・さとし



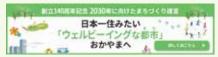
西川緑道公園でオープンカフェが試み 店やシェアオフィスが誕生していたり、 規模な変化でなくとも、 じているであろう。また、このような大 するもの、 の変化も見逃せない。 られたりするなど、 店街で空き店舗を活用した新しい飲食 れている様子に、多くの市民も変化を感 変化し得るものなのである。 市内各所でのミクロ やはりまちは変化 たとえば表町商

> ジョンと、 意味では、 たとみるべきなのであろう。 合するのに要した時間が、 こういった価値観の変化が結 先を見通していた先輩方の 四半世紀だっ

と、必ずしもそうではないであろう。 ンをアップデートすることが不可欠で 私たちも先輩たち同様、 てよいのではないか。そのことは、翻って きたという事実に、私たちは自信を持っ それを四半世紀の間、 市民にとって満足できるものかとい 岡山 方について、自分たちの言葉でビジョ 先を見通したビジョンが作られ、 .市というまちの現在があら 地道に具体化して 将来のまちの ゆ う

イングな・・
イングなが
市となることを目指し、 当所では、これからの10年、おかやまが心身ともに健康で豊かさと幸せを実感できる、 ウェルビー

充実したICTデジタルインフラの整備や、緑化とカーボンニュートラルにつ ながるグリーンインフラの整備によって、ハイブリッドタウン岡山を創造し ていきたいと考えています。本提言は、当所ホームページに「本編」「資 料編」として全文掲載しております。 ぜひご覧ください。





あることを物語っているといえよう。